

日 時 令和4年2月22日(火)

場 所 書面開催

出席委員 毛受委員、小林委員、郭委員、松田委員、レックス委員、李委員、  
金(勲)委員、ブサン委員、ドゥラ委員、朴委員、江副委員、盛委員、  
安藤委員、タイン委員、本多委員、井上委員 16名

## 1 議 事

### (1) 今後の審議予定について

- ・区は良い情報を作っているのので、発信及び理解に関するフォローが必要である。
- ・新たな生活を始める外国人向けに行っている相談や必要とする情報を、「伝わる」ようにするにはどのような改善案があるか考えたい。
- ・必要な情報も、平常時よりもコロナ関連などの非常時のものが多いと思われる。審議を行うにあたって、前提をどこに置くのか、コロナ後の平常時なのかコロナ中の状態なのかを明確にした方が議論しやすい。
- ・そろそろ実際に日本で生活を始めた方達のサポートをどうしていくのか話し合うのが良い。
- ・日本語教育は、オンライン活用の工夫ができると思う。あり方ややり方の議論をしても良いのでは。
- ・今回のコロナのように、今後、緊急事態が起きた際に、外国人に情報がわかりやすく伝わるようにするには、どうしたらよいか。

### (2) 効果的で利用しやすい外国人相談や日本語学習のあり方について

#### (2-1) 外国人相談について

##### ア 新たな生活を始める外国人が相談したい内容

- ・子どもを持つ母親にとっては、家族や子どものことなど、相談したい内容が多い一方で、どこに相談すればいいか、とまどうことも多い。
- ・留学生は、国民健康保険に関すること。
- ・コロナ禍にあって雇用が悪化しているため、雇用関係のこと。
- ・何よりも行う必要がある手続き、税金や健康保険、ビザなど
- ・初めて日本で生活する人に対しては、日本での生活や手続に関する内容や動画のスタートガイドのような内容。
- ・既に日本で生活している外国人の転入の場合、新宿区特有のことや、新宿区でのコミュニティのこと。
- ・新宿生活スタートブックの内容について聞きたい時の連絡、緊急時のNPOを含むいざというときに相談できる相手の連絡先など。
- ・基本的な生活に関する住居や学校、仕事に関すること。
- ・通訳がいる病院など、おすすめの病院の情報

- ・安いカフェの情報など、生活に特別必要ではないかもしれないが楽しい情報
- ・とりあえず困ったら必要な機関に繋げてくれる、入口としての覚えやすい電話番号。
- ・外国ルーツの人同士が共に情報共有できるプラットフォーム。日本人や専門家だけが悩み相談に対応できるのではなく、いろいろな人が、トピック別にスレッドを立て情報共有し、話を聞きあって、共感しあえる場があると良い。
- ・病院など緊急時に備えたこと。
- ・生活に関するルール
- ・コロナ関連の情報。
- ・近所付き合いや日本人との接し方。
- ・母国のコミュニティのこと。
- ・ごみの仕分け、災害時の避難場所

#### イ 外国人相談の周知の工夫

- ・区役所での動画の活用
- ・ICTを活用し、多言語のアプリで情報発信
- ・不動産企業などと連携して賃貸物件やシェアハウスにチラシを貼る。
- ・外国人の登録地の住所に送付する。
- ・学校、同国人コミュニティ内の口コミ、レストランでのちらし配布、HP、SNSなどの活用。
- ・区役所やプラザにQRコードを設置してそこからホームページや各種連絡先に繋がるようにする。
- ・「こまったら相談できる」ということがよく分かるポスターやチラシ（相談例も掲載）を、区の施設に貼る、外国人コミュニティの施設、学校の先生から保護者に渡す。
- ・ZOOMなどを活用した仕組み。
- ・LINEアカウントで発信。

#### ウ withコロナにおける外国人相談窓口のあり方

- ・LINEなどチャット機能があるSNSを利用し、リアルタイムで相談できるようにする。
- ・アプリ開発や動画チャンネル、ユーチューブ等などのオンラインの活用。
- ・対面ではなく電話やオンラインなどで相談できるようにする。
- ・外国人からのよくある質問の回答集を、多言語サイトで見られると良い。
- ・信頼関係がないとできない相談は、日ごろのつながりや同国人コミュニティのリーダーによる情報提供などが有効。
- ・外国人から高い信頼を得ているNPOを通じて情報発信を行う。
- ・各国のコミュニティと協力し、より多くの人に相談ができる体制を作る。

### (2-2) 日本語学習について

#### ア 学習者のニーズに即した情報提供

- ・HP、YouTube、SNSなどによる情報提供。
- ・文化交流会や面白いイベントを開催し、そこで日本語を理解できる企画。

- ・日本料理教室やサムライパフォーマンス。日本のきれいな観光地の紹介や歴史などの動画や映画にそれぞれの母語の字幕をつけて上映する。
- ・初心者向けのクラスは、母国語でアクセスしやすいようにする。
- ・「新宿区日本語教室」や「はじめてしゃべる日本語クラス」は、午前10時頃から始まるものが多いため社会人にとって不便なので、他の時間帯に教室を開催する。
- ・区として「この1つのサイト」「この1つの電話番号」と集約させたものを設け、そこから日本語教室情報へも案内する。
- ・多言語での検索ができる工夫、また曜日、場所、時間、レベル、費用などを検索することで一覧できるようなアプリ（サイト）があると良い。
- ・「にほんごをまなぼう」などのシンプルで心に伝わるキャッチフレーズを各言語で大きく示し、教室の雰囲気がよく伝わる写真を掲載したチラシを、区役所での住所登録時に渡す。
- ・在留カード申請時などに無料クラス、有料クラス、時間、内容を言語毎に周知・案内できるようにする。
- ・いろいろなレベルの人に役立つ日本語のビデオを作成し、日本語学習サイトで発信する。
- ・情報を一つにまとめる。委託や提携の日本語学校の協力とオンラインシステムの構築が必要。
- ・学習者が自分のニーズに合った教室を探すための窓口を設ける。
- ・新宿区内にある日本語学校や外国人の食品店、飲食店等で、日本語教室のチラシを配布する。
- ・エスニックメディアの利用。

#### イ 教室の開催が限られる場合の工夫

- ・ZOOM開催、オンデマンドコンテンツ配信、SNSを利用した双方向的な授業。
- ・出版会社と連携した教育機関等のeラーニング教材活用。
- ・日本語の勉強は動画を見て行い、実際に定期的な交流が行える場を設ける。
- ・文化庁の「つながるひろがるにほんごでのくらし」の動画を活用する。
- ・プラザは、「日本語ひろば」がないときは、本や資料を置いて自習スペースとして利用したり、アシスタントやボランティアに手伝ってもらえるようにする。住民同士や地域社会とのつながりも生まれる。
- ・「言語交換イベント（1時間は日本語のみ、1時間は相手言語のみを話す）を開催する。トピックカードを使って、会話をしやすくすることで、外国人同士や地域の日本人とのつながりもでき、日本人の多言語学習や多文化体験にもつながる。
- ・オンラインで、少人数での開催が有効。日本人も入ったイベント的なカルチャー紹介も兼ねた日本語教室も良い。ビジュアルを重視したコンテンツが有用。
- ・自主学习ツールの紹介。全く教室に来られない人向けに、自習を促しつつ月に2回程度オンラインによる指導も併せて行うことで、自主学习が継続する工夫をする。
- ・会話中心のクラスの場合は、「しゃべり場」のようなサイトを作る。
- ・「生活に必要な日本語」をオンデマンド方式で提供する。講師は数回の遠隔授業で会話練習の成果をみる。

#### ウ withコロナにおける日本語教室のあり方

- ・オンデマンドによるコンテンツ配信と対面式を組み合わせたハイブリッド型の授業
- ・ZOOMなどを活用してオンラインで実施。教室運営者、先生向けにオンラインによる教室運営やノウハウについての研修を行うことが良い。
- ・どのような外国人がいるのか、何を必要としているのかなど会わないと分からない事も多いので、感染対策、人数制限などを工夫して教室開催が好ましい。
- ・授業を時短にして教室では文法などの勉強を行い、あとはビデオ通話などを活用して先生や事務の方と日本語会話の練習などできたら効率が良い。
- ・オンラインの場合、双方向につながることを大切にする。
- ・様々なクラスの情報を一つのプラットフォームに集める。区以外でオンライン活動をしている団体も、学べる内容とZOOMなどのアクセス先を一元化して掲載とする。
- ・多言語ボランティア制度を設け、教え手あるいはファシリテーターとなる。ボランティアは、いろいろな国の人が登録でき、繋がるのが大切。
- ・オンデマンドで学習して課題をこなし、定期的に講師と遠隔会議システムでやり取りをして進捗を確認する方法を取れば、コロナに限らず、移動時間が制限される人にとっても参加しやすい。

#### (3) 次回の日程

令和4年3月25日(金)

#### 2 その他

書面開催につき、上記議題について委員から意見聴取した。